

建設工事の施工段階に応じた災害発生リスクとその防止対策に関する研究

【研究概要】

建設業では施工段階に応じて現場環境が刻々と変化するため、災害の種類および発生リスクの変化に応じた適切な安全対策を講じることが重要である。しかし、現場環境に応じた適切な対策のあり方については、十分な整理ができていない状況にあり、とりわけ中小建設業者においては、安全衛生管理能力が十分でないため、その向上に向けた情報提供（教育ツールの提供等）が必要と考えられる。

本研究では、施工段階に応じた災害発生リスクを抽出し、具体的な防止対策のあり方について、墜落制止用器具を用いた具体的な工法を明らかにすること、ICT技術を用いた新しい斜面崩壊災害の新しい安全対策の確立およびトンネル工事等で利用される吹き付けコンクリートのあり方について科学的根拠を明らかにすることを目的とする。

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
サブテーマ1	水平親綱・垂直親綱にランヤードを取り付ける工法の検討			
		フルハーネス型を安全ブロックに取り付ける工法の安全性の検討		
サブテーマ2	施工段階に応じた災害発生リスクの検討 中小建設業者向けの安全情報可視化手法の検討			
	機械学習による土砂崩壊の異常検知手法の開発			
	土砂崩壊防止のためのトンネル切羽の安定に関する検討			
				研究成果のとりまとめ